

# まちぴあ通信

To create a better city with our own hands.



特集

## 宇都宮市自治会条例制定 ～持続可能な自治会を目指して～



表紙の写真から：新生まちぴあの職員たち。元気いっぱい頑張ります、よろしくお願いします！



みつかる。つながる。よくなっていく。

# 特集

# 宇都宮市自治会条例制定 ～持続可能な自治会を目指して～

少子高齢・人口減少の社会課題は、市内の自治会活動でも顕在化してきました。今回の取材では、持続可能な自治会活動の実現を目指し制定された「自治会条例」について、条例制定に関わった、宇都宮市みんなでまちづくり課さんにお話を伺いました。



自治会では、地域に密着した様々な活動を行っています。

- イベント・親睦活動**
  - 地域の祭り
  - 体育祭
  - 親睦旅行の開催など
- 防犯・防災・交通安全活動**
  - 防犯パトロール
  - 防犯灯の管理
  - 防災訓練
  - 交通安全運動 など
- 環境美化活動**
  - ごみステーションの管理
  - 公園などの清掃活動
  - 廃品回収活動 など
- 福祉活動**
  - 高齢者や障がいのある人を変えるボランティア活動
  - 子どもや高齢者などの見守り活動 など
- 広報活動**
  - 自治会の広報紙作成
  - 市や関係機関からの情報の回覧・配布 など

## 自治会の現状と課題

宇都宮市には、782の単位自治会、39地区の連合自治会があります(令和7年4月現在)。児童の登下校時の見守り、地域の美化活動、街灯・防犯灯の管理など、その地域に暮らす住民の皆さんが安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。

核家族化の増加に伴い、世帯数は増えている一方で、自治会加入世帯率が減少しているのが、宇都宮市の現状だそうです。高齢者の単身世帯、共働き世帯の増加など、世帯・住居・働き方の変化により、加入困難または、続けられない世帯が増え、加入率の低下が続いていることがわかります。



※2006年度以前は合併前の旧河内町、旧上河内町を含まない (出典：宇都宮市の推計人口及び宇都宮市自治会連合会の調査結果を基に宇都宮市作成)

## 世帯、住居、働き方の変化

<世帯の変化>	<住居の変化>	<働き方の変化>																																
<p>○多世代同居の減少</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年</td> <td>2020年</td> </tr> <tr> <td>世帯数 2.4万</td> <td>⇒ 1.6万 (3割減)</td> </tr> <tr> <td>割合 12.2%</td> <td>⇒ 6.9% (半減)</td> </tr> </table> <p>○単身世帯の増加</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年</td> <td>2020年</td> </tr> <tr> <td>世帯数 5.9万</td> <td>⇒ 8.9万 (5割増)</td> </tr> <tr> <td>割合 30.4%</td> <td>⇒ 38.7% (3割増)</td> </tr> </table>	2005年	2020年	世帯数 2.4万	⇒ 1.6万 (3割減)	割合 12.2%	⇒ 6.9% (半減)	2005年	2020年	世帯数 5.9万	⇒ 8.9万 (5割増)	割合 30.4%	⇒ 38.7% (3割増)	<p>○マンション等(集合住宅)の増加</p> <table border="1"> <tr> <td>2003年</td> <td>2018年</td> </tr> <tr> <td>戸数 6.4万</td> <td>⇒ 8.4万 (3割増)</td> </tr> </table> <p>※参考：一戸建て</p> <table border="1"> <tr> <td>2003年</td> <td>2018年</td> </tr> <tr> <td>戸数 11.9万</td> <td>⇒ 14.4万 (2割増)</td> </tr> </table>	2003年	2018年	戸数 6.4万	⇒ 8.4万 (3割増)	2003年	2018年	戸数 11.9万	⇒ 14.4万 (2割増)	<p>○共働き世帯の増加</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年</td> <td>2020年</td> </tr> <tr> <td>世帯数 5.1万</td> <td>⇒ 5.3万 (若干増)</td> </tr> </table> <p>○専業主婦(夫)世帯の減少</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年</td> <td>2020年</td> </tr> <tr> <td>世帯数 4.1万</td> <td>⇒ 3.0万 (3割減)</td> </tr> </table> <p>○高齢者就業の増加</p> <table border="1"> <tr> <td>2005年</td> <td>2020年</td> </tr> <tr> <td>就業率 (65-74歳)</td> <td>26.6% ⇒ 34.4% (3割増)</td> </tr> </table>	2005年	2020年	世帯数 5.1万	⇒ 5.3万 (若干増)	2005年	2020年	世帯数 4.1万	⇒ 3.0万 (3割減)	2005年	2020年	就業率 (65-74歳)	26.6% ⇒ 34.4% (3割増)
2005年	2020年																																	
世帯数 2.4万	⇒ 1.6万 (3割減)																																	
割合 12.2%	⇒ 6.9% (半減)																																	
2005年	2020年																																	
世帯数 5.9万	⇒ 8.9万 (5割増)																																	
割合 30.4%	⇒ 38.7% (3割増)																																	
2003年	2018年																																	
戸数 6.4万	⇒ 8.4万 (3割増)																																	
2003年	2018年																																	
戸数 11.9万	⇒ 14.4万 (2割増)																																	
2005年	2020年																																	
世帯数 5.1万	⇒ 5.3万 (若干増)																																	
2005年	2020年																																	
世帯数 4.1万	⇒ 3.0万 (3割減)																																	
2005年	2020年																																	
就業率 (65-74歳)	26.6% ⇒ 34.4% (3割増)																																	

## 自治会条例が生まれるまで

こうした現状を改善し、継続可能な自治会活動を実現するために始まったのが、「自治会条例」の策定です。令和6年8月から11月にかけて、学識経験者、自治会、関係団体、NPO、事業者、市議会議員、公募市民で構成される外部懇談会懇談会が4回にわたって行われ、12月に、広く市民の皆さんからの意見をいただくパブリックコメントが実施され、令和7年3月議会を経て制定に至りました。

自治会・市民・事業者・非営利等活動団体・市といった地域を構成する「みんなの役割」を改めて見つめなおし「住みよいまち」の実現のために、それぞれに何ができるかを認識・共有することを目的に作られました。



自治会条例



条例動画

## 地域を支える役割を知るきっかけ

もし自治会がなくなったら、地域を見守る人がいなくなってしまうかもしれません。災害時に近所同士で助け合うことが困難になるかもしれません。ゴミステーションの管理がされなくなり、快適で住みよいまちが保たれなくなってしまうかもしれません。そんな困ったことにならないように、「地域の和を未来へつなぐため」のきっかけになるようにと作られたのが、この条例なのです。

住みよいまち、支えあう地域をつくるためには、誰が、どんなことから始めればいいでしょうか？ たとえば自治会は、子育て世代や若い世代が参加しやすいイベントを開催してみたり、SNSなどで地域の情報を発信してみたりもいいかもしれません。

市民は、住んでいる地域の自治会について調べたり、地域のイベントやボランティア活動に参加してみたりしてはどうでしょうか。住宅関連をはじめとした事業者の方々は、自治会活動に関わる従業員への理解や協力を深め、入居者や地域自治会のニーズを聞いてみるころから始められるかもしれません。

今回制定された自治会条例は、地域に住まうそれぞれの立場の人と組織の役割と、チャレンジできそうなことを改めて考えさせてくれます。今は、自治会に関わってなくても、子育てや介護など家庭環境の変化によって、地域の協力を必要とする時があるかもしれません。そんな「もしも」に備えて、地域に住んでいる各組織がゆるやかに付き合いをはじめてみるのが、「支えあう地域」をつくる一歩かもしれません。



▲今子連「秋祭り」の様子。高校生が手作りしたゲームコーナーで、子ども達と交流。



▲今泉小夏祭り「夏の夕べ」での活動風景

## まちびあにできること

### ～自治会を知り、体験できる場の提供～

まちびあでは、市内の高校生が、自治会の催事に協力する活動体験や、地域の未来を考えるシンポジウムの開催といった事業を行ってきました。今後も、地域での実際の活動を通じて、自治会との距離を縮めていくとともに、自治会・市民・事業者・市といった「みんな」が顔を合わせ、親睦・交流を深められるような場の創出も検討中です。

令和7年4月からは、指定管理者が「公益財団法人とちぎYMCA」に変わったこともあり、従来の取り組みに加え、法人の強みである、子育てや福祉、多文化共生といった分野も切り口に、地域にできることを発信していこうと考えています。

まちびあは、市内で活動するNPO等地域活動、非営利活動団体の支援施設です。これまで、登録団体の皆さんが、特技を生かして地域のイベントなどに協力下さいました。こうした、各団体と自治会との接着剤としての役割を今後もより強めていき、住みよいまちをつくり、支えあう地域の一員として「みんな」の一助になれるよう頑張っていきます。

## 市民活動取材

# 永遠の故郷を創る「とよさとのうた」



歴史と文化を感じさせる田園風景が広がる豊郷地区。この土地の魅力を伝える豊郷地区のオリジナル楽曲「とよさとのうた」。その制作過程を知るために、豊郷地区連合自治会会長の首藤慎二さん、豊郷地区市民センター所長の穂山克彦さん、副所長の上野好則さんにお話を伺いました。

とよさとのうたは、豊郷地区に住んでよかったと言えるまちづくりを目指したいという思いから生まれました。最初は、歌と言っても校歌のようなものしかイメージできませんでした。豊郷の良さを長く伝えていくことを思って楽曲制作が開始されました。

歌づくりは地区を挙げて進めたいという思いの中、まず、当時の地区センター職員が、たまたま知り合いだった豊郷地区在住のプロの音楽家、池田真也さんにお声をかけました。池田さんは後に、このプロジェクトの中核となっていきますが、池田さんとの出会いが大きな契機であったことは間違いありません。池田さんのつながりで、歌づくりに賛同いただける地区在住の音楽家が集結しました。音楽家のみなさんには、地区の老若男女誰にでも受け入れられる曲を作りたいという難しいオーダーで作曲をお願いしました。

作詞については、広く地区住民の方々に関わってもらおうという話になりました。

初めに作曲を行い、SNS上で公開し、その曲のメロディを参考にして言葉のフレーズを募集するという流れでした。募集を開始すると、7歳から88歳までの幅広い年代の方々が参加し、合計で約300件にも上る応募が寄せられました。膨大な数の中からAIなどを使って言葉を抽出し、歌詞に盛り込むキーワードを選定していきました。

その中で特にこだわった点は、「固有名詞を入れないこと」でした。校歌であれば、多くの固有名詞が特定の場所を想起させるものですが、そのやり方はあえて選びませんでした。豊郷の豊かな情景や、住民同士のつながりをイメージできるようにしつつ、特定の地名や名前を言及せず受け取る方の感性に委ねることで、誰にとっても聴きやすい曲に仕上がりました。

歌が完成すると、地区内の小中学校に許可を取り、それぞれの学校で子供たちの歌声を録音し、合唱の映像を撮影しました。それらの素材を使ってCDを作成、また、ミュージックビデオも作成し、地区のホームページやYoutubeにアップしました。学校の昼休みや幼稚園の卒園式で音楽を流したり、地区のみなさんに公民館で合唱やバンド演奏をしてもらったり、地区内で開催される「こどもフェスタ」では豊郷中学校の吹奏楽部に吹奏楽バージョンの演奏を依頼したりする取り組みも行われました。楽譜も公開しているため、どんな人でも簡単にこの歌に触れることができます。このようにして、どこでも耳にすることができる音楽として広めていくのが狙いなのです。もともとは、地域ビジョンを具現化するための企画でしたが、作ることや活用すること自体を一つのまちづくりと捉えて進めました。その考えに地域の方が賛同して意思疎通を続けたことで、この歌は完成に至りました。すべての過程の中で育まれた人とのつながりの集大成がこの歌なのです。

今後は、この「とよさとのうた」が文化として継続していくための施策を考えていく必要があります。「将来の若者へつなげていくためには、少なくとも10年から20年は継続させることに力を入れていきたい」と、首藤さんは語っています。小中学校で音楽を流す機会を作り続けるのはもちろん、連合自治会として地域行事などで流れるような働きかけも行っています。

また、豊郷には企業や病院もあります。そうした場所も時折訪問し、歌が流せる場がないかを検討していきたいと考えているそうです。今後も新たな視点での発想を生み出していくためには、人とのつながりが強いこと、そして協力が得られる地域であることが不可欠です。この二つがそろっていることこそが、豊郷という地区の大きな強みであると言えるでしょう。

この地域で育った若者が他の地域に移っても思い出すことができ、帰ってこられるように、「とよさとのうた」はこれからも人々に寄り添い続けていくことでしょう。



## 住民が集い、支え合う場所「むらいの保健室」

### ～お茶を飲みながら、健康・暮らしを語り合う場所～

宇都宮市内でいま、地域の住民たちが集うあたたかな場所があります。その名も「むらいの保健室」。健康や介護、暮らしの困りごとを気軽に相談できるこの活動について、運営に携わる岩本さんと小須田さんにお話を伺いました。

#### 地域のカフェが「保健室」に早変わり

宇都宮市内を中心に、地域住民の交流と健康づくりの場として広がる「むらいの保健室」。毎月第3火曜日戸祭町の「フラットカフェ」をはじめ、現在は市内4か所で活動を行っています。お茶を片手に語り合いながら、日々の健康や暮らしの悩みを気軽に相談できる場として、地域に根付いた取り組みを行っています。

#### 多職種が支える温かなつながり

活動には、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師などの専門職が参加。医療・介護・生活全般の相談ができるのが大きな特徴です。病院ではなかなか話づらい悩みも、ここなら安心して話せると、多くの参加者が訪れています。中には、がん治療の副作用に悩んでいた方が、看護師との出会いをきっかけに前向きさを取り戻した例もあるとのこと。

#### 住民同士が自然に支え合う場に

「むらいの保健室」では、健康相談だけでなく、介護保険の手続き方法、スマートフォンの使い方など、生活のちょっとした困りごとをサポート。電子機器が苦手な方も、得意な住民に教えてもらいながら、自然な助け合いの輪が広がっています。

#### 今後の展望

##### ～高齢者が取り残されない地域づくりへ～

活動の今後について、スタッフの岩本さんはこう語ります。「スマホなど情報機器を使いこなせず、社会の情報から取り残されがちな高齢者の方々が、地域の保健室に足を運ぶことで支えられるようになれば嬉しいです。ここで得た情報をお友だちにも伝え、広げていってほしい。自分たちの活動が人助けに結び付けられれば良いと考えています。」また、小須田さんも「相談する場所がなく孤立する方が増えている。誰がどんな状況になったら、どこへ相談に行けばよいか分かる仕組みがもっと必要」と話します。「地域包括支援センターや保健室のような場所が増え、気軽に足を運べる仕組みが広がれば、自然と地域の助け合いも生まれていく。人と人とのつながりを大切に、困っている人をそっと後押しできるような活動を続けていきたい」と、これからの想いを語ってくれました。

#### 人と人とのつながりが、安心を生む

病院では気づかれにくい悩みや、小さな困りごと----

「むらいの保健室」は、そうした日常の“ちょっとした困りごと”を温かく受け止め、地域の中で支え合う仕組みをつくっています。お茶を飲みながら、誰もが安心して話ができる居場所。そこには、昔ながらの「ご近所の助け合い」の風景が、ゆるやかに息づいていました。



#### お問い合わせ

028-643-0332(村井クリニック 地域連携推進室)  
むらいの保健室(村井クリニック) 小須田  
認定栄養ケア・ステーションうつのみや 岩本



医療法人社団 宇光会

むらいの保健室 宇都宮市戸祭町2123-1 フラットカフェ  
まんなかサロン 宇都宮市羽牛田町40-3 子ども食堂むらい(予約要)  
アソシエやなせ 宇都宮市築瀬町1950-15 アクアドールパートナー  
サロンASSOCIE(アソシエ)(予約要)  
ウエルシア保健室 宇都宮市細谷町254-1 ウエルシア宇都宮細谷店

#### 編集後記

身近な場所で、安心して相談できる「むらいの保健室」。お話を伺いながら、こうした居場所が地域にあることの大切さを改めて感じました。困ったとき、誰かに話せる。それだけで、心が少し軽くなるのかもしれませんが、これからも、地域にそっと寄り添う優しい居場所であり続けてほしいと感じました。(森・前澤)

地域や誰かのために活躍する宮っこを紹介！

vol.1 このまちの、あのコの話！

## 「未来の歌姫による懐かしの名曲を」

「私の歌で宇都宮の音楽を盛り上げたい。」と語るのは、「黒ネコのタンゴ」や「アイドルを探せ」などの懐かしい昭和の名曲を歌いこなす、小学5年生のサラージャ・ヒマリさんです。彼女が歌の世界に足を踏み入れるきっかけとなったのは、5歳の時に、現在ヒマリさんと共にプレミア・アンサンブルというバンドで活動している、みゆスタの音楽講師・馬場先生から「歌ってみたい？」と声をかけられたことでした。最初に歌った曲は、ジャズの名曲「Fly Me To The Moon」。ここから彼女の歌声を届けるボランティア活動は始まりました。

現在は、特に介護施設や障がい者支援センターでのコンサートに力を入れています。その他にも、声楽や合唱、ピアノ、バイオリン、さらに、フランス語や英語まで多くの習い事をしています。また、コンサートの回数は年間で50回に及びます。そのような多忙な毎日の中、イベント出演時は、必ず歌詞を覚えることを心がけています。そのため、車で何度も音楽を聴き、お母様に書いてもらった歌詞を見て覚えていきます。「お客さんは歌を聴きながら、手拍子や歓声を送ってくれたり、一緒に歌ったりして楽しんでくれます。泣いて喜んでくれるお客さんを見ると、自分の音楽や喜びを共有できたようで嬉しです。」と笑顔で話してくれました。

将来の夢は歌手になること。「みんなが憧れるような人になって、昔の歌の良さを伝えたい。」と語ったヒマリさん。今日もその素敵な歌声で、人々に笑顔と喜びをもたらしていることでしょう。



サラージャ・ヒマリさん

## 話題のこれ！ 商品紹介

## 1000年続く、栃木の食文化を未来へ



「給食で出た“あいつ”——。」「しもつかれ」という名前を聞いて、そんな記憶がよみがえる栃木県民は少なくないのではないでしょうか。好き嫌いが分かれる郷土料理「しもつかれ」。しかし、今、この伝統の味を未来へとつなごうとする動きが生まれています。今回は「しもつかれ」を次世代へと伝えるべく、「ご飯にかけるしもつかれ」を開発した宇都宮大学地域デザイン科学部3年の石井優衣さんと篠原葵さんにお話を伺いました。埼玉県出身の石井さんは進学を機に栃木県内の全市町を巡り、食と農をテーマに様々なフィールドを周る中で「しもつかれ」と出会いました。見た目に反しておいしいと感じた石井さんは、「ただ広めるだけでは魅力が伝わらない」と考え、篠原さんや市民団体「しもつかれブランド会議」、県内企業の「ユューワールド」と共同で商品開発を始めました。初回試作では鍋を焦がす失敗もありましたが、その後十数回の改良を重ねました。県の調査書から「しもつかれ」の1000年の変遷を学んだ上で、鬼おろしを使用する点は受け継ぎながらも、調達が困難な鮭はヤシオマスへと代替し、時代に合わせた工夫を加えました。これにより、生臭さも段違いに変わり、魚のおいしさが「しもつかれ」に乗るようになりました。こうして開発された「ご飯にかけるしもつかれ」はイベントで提供され、6月末に大阪・関西万博で設置されていた県出展ブースでも販売されました。お二人は、「県民の苦手意識を和らげつつ、広く認知される初午の伝統食として未来に残したい」と力強く語ってくれました。

「しもつかれ」が初めて記載されるとされる宇治拾遺物語。どこで僧がしもつかれを食べたでしょう？  
A栃木県 B新潟県 C滋賀県 ★答えはページ最下部。

## 登録団体紹介

### 今年で10周年 多様な居場所づくりを目指して / 宇都宮大学LGBTs研究会 にじみや

2015年に誕生した「宇都宮大学LGBTs研究会 にじみや」さんは、セクシュアルマイノリティの方々が安心して集える“居場所づくり”をテーマに活動を続けています。

現在のメンバーは12名。サークル内での交流会をはじめ、学園祭イベント出店や読書会、学外での交流イベントなど、活動スタイルは多彩です。東京で開催された「東京レインボープライド」にも参加したりと「性と生の多様性」を祝福する取り組みにも積極的に関わっています。

にじみやさんが考える“まちづくり”とは、それぞれの人が心地よく過ごせる居場所を増やし、誰もが安心してつながれる環境をつくること。「大学生はもちろん、中学生から社会人まで、年齢やセクシュアリティに関係なく、ぜひ気軽に参加してほしい」と代表の中村さん。今年12月7日（日）には、どなたでも参加できる「第3回 学外交流イベント」が開催されます。

多様な性のあり方を社会に伝える架け橋となり、誰もが自分らしく生きられる社会を目指して——。にじみやさんは、これからその一歩一歩を大切に歩み続けていきます。あなたも、自分らしさを大切にできる空間で、新しいつながりを広げてみませんか？

団体名 宇都宮大学LGBTs研究会 にじみや  
活動場所 宇都宮大学  
宇都宮市まちづくりセンターまぢびあ  
活動日時 不定期(月1, 2回)  
連絡先 uu.nijimiya@gmail.com  
Instagram:nijimiya\_uu  
X:@nijimiya



メンバー募集あり。

中高生や専門学生、他大学の学生、大学院生、社会人も大歓迎です。興味がある方はお気軽にご連絡ください。

### 煌めく光が描く影の舞台 / 影絵光

毎月第1・第3水曜日に活動している影絵サークルの代表、中村佐知子さんにお話を伺いました。サークルでは、影絵を通じて地域の子どもたちや高齢者の方に夢を届けています。

「影絵を披露したときに、子どもたちの目が輝く瞬間が一番のやりがいですね。『また見たい!』という声を聞くと、次回も頑張ろうという気持ちになります」と中村さんは語ります。影絵は幻想的で美しいものですが、舞台裏ではさまざまな努力が必要です。

「影絵の演技は膝をついた姿勢で行うことが多く、実は体力勝負です。数時間の練習や公演前の準備に1時間ほどかかることもあります。準備は地道な作業ですが、その分、完成したときの達成感は格別です」と中村さん。影絵の裏方作業は大変ですが、そのやりがいを感じながら活動を続けています。

現在、影絵サークルでは新メンバーを募集中です。中村さんは「経験がなくても大丈夫です。やる気と熱意さえあれば、どなたでも歓迎します！影絵を通して一緒に楽しい時間を過ごし、地域の子どもたちに笑顔を届けませんか？」と呼びかけています。

影絵の世界は子どもたちの心に夢と希望を与える素晴らしい活動です。興味のある方は、ぜひ見学から参加してみてくださいはいかがでしょうか。

団体名 影絵光  
活動場所 宇都宮市まちづくりセンターまぢびあ  
活動日時 不定期(月2回程度)  
代表者 中村佐知子



## 連載コラム

### 地域づくり・まちづくりと社会教育（1）

## ～大学生にとっての社会教育とは～

若園 雄志郎 准教授 / 宇都宮大学 地域デザイン科学部

このたびまちづくりコラムを依頼された宇都宮大学の若園です。今回、「地域を保つという視点、多文化共生、社会教育」をキーワードとしてほしいとのことで、これらを意識しながら3回に分けてお話ししようかと思います。

「学校教育」については何となく説明できる方も多いのではないかと思います。その表記どおり学校における教育ですので、それがどのようなものかは皆さん想像できることと思います。一方で「社会教育」というのは具体的にどのようなものか、がすぐには思いつかないかもしれません。ここで、理論的な説明や法的な位置づけをお話してしまいたいところですが、一案として私のゼミ生が（もちろん巧拙はありますが）どのような卒業論文に取り組んだかということから考えてみましょう。つまり、ごく普通の大学生が思い描く「社会教育」について見てみたいと思います。

私のゼミで提出済みの2024年度までのテーマを改めて見返してみると、多いのは図書館と高等学校の「総合的な探究の時間」に関するものでした。図書館は社会教育施設の1つであり、ほとんどの自治体に整備されています（益子町にはもともと「図書室」がありましたが、近々「図書館」ができるとの報道があり、注目しています）。学生に尋ねてみると、高校生の時は図書館で受験勉強をしていた、という者も少なくありません。学生にとって身近な「社会教育」とは図書館のことかもしれません。



#### <書籍紹介>

佐々木史郎、北原モcottウナシ監修・執筆

『最新アイヌ学がわかる』A&F BOOKS、2024



図書館は「無料の貸本屋」と揶揄されてしまうこともあるのですが、訪れてみればそのようなことは無いことがわかるでしょう。以前、「社会教育実習」という授業で市内の3つの図書館に実習を受け入れていただいたのですが、いずれの実習も地域の方々が抱えている課題に向き合う講座を企画せよというものでした。内容そのものはレクリエーションが中心となることもあるのですが、そこからさらに知識を深めるための図書紹介や他の講座の案内などが行われ、その地域がより豊かなものになっていくような学びの提案がなされていたということができます。この「人や地域を豊かにする学びの提案」を行っていくのが社会教育の1つであるといえます。

また、もう1つの「人気テーマ」である高校の「総合的な探究の時間」（総探）も、ここ最近では多くの実践や研究の蓄積がなされてきています。総探はそれ以前の「総合的な学習の時間」を発展させ、2022年度より導入されたもので、各高校で様々な取り組みがなされています。ここで、学校から出て地域のことを学ぶ、あるいは地域とともに学ぶという内容をもつ高校もありますが、これは学校教育と社会教育が重なり合ったものであると考えることもできます。このように、いろいろなところに地域との関連がある「種」が存在しているといえるでしょう。

なお、書籍紹介ですが、冒頭の「多文化共生」と地域づくりを考えるヒントとして、アイヌ民族に関する書籍を挙げていきたいと思います。

# まちぴあからのお知らせ

## 新センター長挨拶

2025年4月から公益財団法人とちぎYMCAが指定管理者として、「宇都宮市まちづくりセンター(まちぴあ)」を運営することになりました。前指定管理者である、認定特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房の皆さまが作り上げてきたノウハウを大切にしながら、より一層充実したまちぴあになるよう努めさせていただきます。

まちぴあは、市民による「まちづくり活動」がより活性化されるよう、ボランティア団体・NPO法人といった市民活動団体の連携促進や組織基盤強化など、多様な支援を行うまちづくり活動の拠点施設です。

私たちが生きるこの社会は多様な要素が相互に作用しあい、複数の文脈が絡み合うため、分析だけでは問題と主な原因が一つに同定できないものです。また表面上の課題に目に向けて行動すると、また副作用のループが連れて発生してきます。このスパイラルに私たちはいつも飲み込まれているかもしれません。

私たちまちぴあが大切にしたいのは、ケイパビリティの連鎖と結合です。ケイパビリティとは、主に組織や人が持つそれぞれが持つ強みを指しますが、これが有機的に連鎖することがよりよい社会状況の構築の一手となるのではないかと考えています。

とにもかくにも、まずは「まちぴあ」が様々な文化の中で暮らす、あるいは持つ方と共に汗をかき、多文化かつ俯瞰した視座を獲得することからだと思っていますので、たくさんの方やグループ、組織がまちぴあを活用して楽しみ、私たちとつながり、気づきを相互に共有できたら幸いです。これからとちぎYMCAが運営する「まちぴあ」をどうぞよろしく願います。一緒に活動を楽しみましょう。

宇都宮市まちづくりセンター センター長 / 濱塚 牧人

## 助成金情報

### 令和7年度 市民活動助成金交付団体の活動紹介

#### 宇都宮発の市民活動を応援しています

市では、市民や企業の皆さんからの寄付金の他に、寄付金と同額を市からも支出して積み立てる「市民活動助成基金」を設置し、さまざまな分野で活躍する市民活動団体に助成金を交付しています。今年度の助成先が決定しましたので、今後の活動にご注目ください。

#### <スタート支援コース>

立ち上げて間もない団体などに、事業の開始など団体の自立化を支援するコース  
うつのみや未来共創ラボ / 地域の様々な人々がつながるきっかけとなるイベント「100人カイギ」の開催

#### <ステップアップ支援コース>

結成後2年以上経過した団体に、事業の拡大など活動の活発化を支援するコース

群雀 / 雀宮駅周辺における地域活性化イベント「ムラスズメ2025」の開催  
特定非営利活動法人ほっとスペースひだまり / 障がい者に対する理解と協力を得るため、地域の自治会公民館を会場に、世代や属性を超えて交流できる場の創出  
みゆスタ / 武道家による護身術体験や刑事の講演などを行う防犯イベントの開催  
宇工高スカイベリージャム / 小中学校でのプログラミング出前講座等の開催  
NPO法人大谷商工観光協会の会 / 大谷地域全体の活性化イベント「大谷夏祭り」の開催  
宇都宮アニソン万博実行委員会 / アニメソングを主に用いた野外DJイベント「アニソン万博」の開催、キッチンカー等による地域食文化のPR  
NPO法人フェムテック支援協議会 / 女性の生涯に起こり得る健康問題等についてのセミナー等の開催  
マザーズガーデン〜子どもワクワク教室「あすなろ」〜 / 中学生が主体となって親子体験等イベントの企画・運営・実施を行う取り組みへの伴走支援  
絆翔〜HY〜 / 宇都宮市の活性化やよさこいの普及を目的とするイベント「よさこいフェスティバル」の開催

#### <連携支援コース>

団体が、2つ以上の団体または事業者等と連携して実施する新規事業および既存事業の拡大に要する費用を助成し、市民協働を支援するコース

徳次郎石研究会 / 宇都宮大学や小山工業高等専門学校と連携した大谷石建築物の調査・保存・出版など  
TABUWATA / 損保ジャパン株式会社栃木支店と連携した多文化共生のまちづくりに向けたイベント、セミナー等の開催  
シニア生まれ変わりP」会にてIT(IT)なかまの会 / 地区社会福祉協議会と連携した高齢者向けスマホ講座の開催



web



Instagram



X



LINE

指定管理者:公益財団法人 とちぎYMCA

〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5丁目9-7

TEL:028-661-2778 FAX:028-689-2731

URL:http://u-machipia.org

開館時間 午前9時から午後9時30分まで(日祝は午後5時まで)

休館日 年末年始(12月29日～翌年1月3日) 臨時休館(施設点検等)半年ごと年2回

アクセス ライトライン 各停「駅東公園前駅」(上り・下り)下車徒歩7分程度

バス JR宇都宮西口から平出工業園地行きまたは柳田車庫行き「白楊高校」下車 徒歩5分程度

電車 JR宇都宮駅東口から徒歩15分程度

センター内駐車場 28台

## まちぴあ新規登録団体

一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協力会東日本区

YMCA主催事業等への参加、協力

GAFASTEP 宇都宮

ギャンブル依存症の家族を対象にした相談等支援活動

ヨガサークル縁

中高年層を対象にしたヨガ体験教室の実施

ひまわりフォークダンス

シニア世代の健康づくりを目的としたフォークダンス教室

こねっこ

不登校支援に関する居場所等支援活動

バランスボール同好会

シニア世代を主な対象にした室内運動教室

春フェスinオリオンスクエア実行委員会

大学生が企画する「春フェス」の開催及びその他のイベント運営

子育てサークルひまわり

子育て相談及び居場所活動の実施

レモネードスタンド・ラブルリ

小児がん支援を目的としたレモネード等の販売等チャリティ活動

栃っ子スポーツ

パラスポーツ、アダプトテニススポーツの体験会の開催

Mommy & Me English

子育て世代を主な対象にした英会話学習会の開催